



## 香良洲道の道標

香良洲神社は寛政9(1797)年に発行された「伊勢参宮名所図会」にも紹介されており、伊勢への参拝者は、行き帰りのいずれかでこの神社を訪れたそうです。現在も香良洲地域には、伊勢街道から香良洲神社への脇街道であった香良洲道の道標がいくつか残っています。

香良洲大橋北詰の土手下の一角には、元治2(1865)年建立の常夜燈と、高さが2.5m、1.5m、1.4mの道標が並んで立っていて、道標にはそれぞれ「右さんぐう道 左からす道」、「右津みち 左雲出川道」、「右津みち 二里 左さんぐう道 松坂江二里 明治二己巳(1869)年 左すぐからす道 六丁」と刻まれています。

その中でも2.5mの道標は、背面に「文政六(1823)年癸未孟春 藤枝町 瓦屋鯛女建立」と刻まれていることから分かるように、もともと香良洲町内に建立されたものではありませんでした。伊勢街道と香良洲道の分岐点にあたる藤枝と垂水の境の思案橋の南にあったもので、昭和19(1944)年の東南海地震で倒れたままであったため、旧香良洲大橋の北詰に移されました。

旧香良洲大橋北詰には、この道標の他にも常夜燈と1.4mの道標がありましたが、平成11年、橋の架け替えに併せて現在の位置に移されました。

また、1.5mの道標は、もとは旧香良洲大橋の100mほど東の堤防上にありましたが、これも他の道標とともに現在の場所に移設されました。この辺りの堤防沿いには、他にも高さ1mほどの卵形をした自然石に「左すぐからす道」と刻まれた道標がありましたが、現在その所在は定かではありません。

雲出川堤防沿いの道路を東へ進み町中へと入ると、香良洲郵便局近くの道の傍らに、大正14(1925)年建立の道標を見ることができます。指をかたどった浮き彫りは、香良洲神社の方向を指しており、30年ほど前までは「から」までが読めたそうです。しかし、舗装工事などで地中に埋もれてしまい、今は「か」の字が見えるのみとなっています。天災や工事などの理由で、場所を移しながら、今に至る道標。往時の街道のにぎわいに思いをはせながら、香良洲道をたどってみたいかがでしょうか。



香良洲大橋北詰の常夜燈と道標



※香良洲橋は架け替え工事のため、2023年3月末(予定)まで通行止め